

# 平成21年 ホヤ類調査結果 No.3

平成21年7月27日

函館水産試験場 調査研究部 栽培技術科

函館水試八雲定期調査 渡島北部指導所森地区定期調査に合わせて、ホヤラーバ計数・付着物測定を行いました。

下記の通り、八雲地区、森地区の結果をお知らせいたします。

**\* 八雲地区でザラボヤラーバが多数見られています。**

**\* 1回目の付着ピークを迎えたようです。**

森地区でもザラボヤ、ユウレイボヤラーバが少数出現しています。

**\* 八雲地区で耳吊ホタテガイへのザラボヤ付着が確認されました。**

ホタテ1枚あたりの付着物重量は平均9.1g、ザラボヤはそのうち40%を占めていました。

現在の大きさは0.2~1cm程ですが、これから成長して重さも増えていきます。

また、ラーバが出現していることから、さらに付着数も増えていくと考えられます。

**今年度もザラボヤに注意が必要です。**

7/27からの週に渡島側6地区の貝を調査する予定です。

今後も継続してラーバ情報と付着物情報を発信していきますので、参考にして下さい。

## 1:ラーバ調査結果

\* 八雲内浦定点

平成21年7月23日調査

①プランクトンネット・15m曳き

ラーバ	水深17m地点	32m地点	42m地点
ユウレイボヤ	9	15	4
ザラボヤ	21	51	12
その他ホヤ類	75	96	22

②プランクトンネット・30m曳き

ラーバ	水深17m地点	32m地点	42m地点
ユウレイボヤ		9	8
ザラボヤ		57.5	17
その他ホヤ類		152.5	30

\* 森定点

平成21年7月17日調査

①プランクトンネット・15m曳き

ラーバ	沖1000m地点	沖3000m地点
ユウレイボヤ	3	0
ザラボヤ	3	0
その他ホヤ類	1	2

②プランクトンネット・30m曳き

ラーバ	沖1000m地点	沖3000m地点
ユウレイボヤ	3	0
ザラボヤ	2	0
その他ホヤ類	4	1

\* データは全て海水1tあたりの個体数

## 2: ホタテガイ付着物調査結果

\* 耳吊ホタテガイ1連を上層(5m)中層(10m)下層(15m)の3層にわけ、各層のホタテを採取して付着物を測定

\* 八雲内浦定点

平成21年7月23日調査

付着物重量(g)	上層	中層	下層
ユウレイボヤ	0.0	0.0	0.0
ザラボヤ	7.8	2.9	0.8
イガイ	0.0	0.0	0.0
キヌマトイガイ	0.0	0.0	0.0
フジツボ類他	5.6	1.7	2.5
群体ホヤ類	0.7	0.6	0.1
ヒドロ虫類(クサ)	2.5	1.3	0.8
全付着物重量(g)	16.6	6.4	4.2
ザラボヤの割合(重量%)	47.0	44.9	19.1
ザラボヤ付着個体数	97	67	37

\* データは全てホタテ1枚あたりの値に換算

ザラボヤは上層で9.1g、97個体、中層で2.9g、67個体、下層で0.8g、37個体でした。全付着物量に占めるザラボヤの重さ割合は上層47%、中層45%、下層19%でした。ザラボヤの付着の特徴として、去年は下層から付着重量が増えていきましたが、今年他生物と同じように、上層の方が付着重量・数ともに多くなっていました。

現在は付着物全体の重さも少なく、またザラボヤの大きさも0.2~1cmと小さいですが、今後昨年並みに成長する場合を考えるとかなり心配な状態です。(昨年12月の出荷開始ごろにはザラボヤ1個体の大きさが6~8cmまで成長した)手に負える大きさのうちに何らかの対策を考えておく必要があります。



図: 7月調査時の耳吊ホタテガイへの稚ホヤの付着の様子(上層のホタテ) クサの合間に見える半透明な粒粒ひとつひとつがザラボヤ。

\* 右の写真のホタテ1枚でだいたい100個体近いザラボヤがついている。

**\* 八雲以外の5地区の状況は今週調査予定です \***